

看護師から説明!

手術室には、患者さまの安全・
安心な手術を支えるために
私たち手術室看護師がいます!



周術期管理チーム
認定看護師
松島加奈子
まつしまかなこ



「看護師」という職名を聞くと多くの方は、白衣を着てクリニックや病院の外来、病棟で患者さまのケアをしている姿を想像されるのではないのでしょうか。私たち手術室看護師は白衣ではなく手術着を着用し、常に手術室で勤務しており、患者さまの周術期(手術の前・手術中・手術後)を通して患者さまやご家族の皆さまのケア、支援を行っています。

手術の前には



患者さまの手術中の様子を予測し、安全に手術を受けることができるよう、手術に必要な機器や手術室の準備を行います。

そのために当院の手術室では手術前に患者さまの病室を訪問してお話を伺っております。手術に必要な情報はもちろん、手術を受けられる患者さまの様々な不安や疑問などお気軽にご相談ください。

手術を受けられる患者さまの不安の大きなものに、手術後の痛みがどの程度のものかということがあるとします。術前訪問では、計画されている麻酔方法や痛み止めの方法などご説明しております。

手術当日・手術中には

手術当日は、患者さまの緊張や不安が少しでも軽減するように手術室へ入る時から一緒に行動します。

手術中は事前に得た患者さまの情報から、ケアを計



画し実施します。例えば、事前に関節の痛みがあることや皮膚が弱いなどの情報があれば、無理のない体の位置の調整や皮膚を保護する処置をするなど様々なことを行っています。また、手術チームの一員として外科医への器械渡しや麻酔科医などと協力して、手術の進行をサポートしています。

手術が終わったら



手術が終わったら、全身麻酔の場合は麻酔科医のサポートを行い、患者さまが安全に麻酔から覚めるよう援助します。患者さまには手術が無事に終了したことを伝え、痛みや不快な症状がないか確認していきます。何か症状があれば、軽減できるように対処していきます。

手術後の痛みを和らげる方法には主に

- ①硬膜外麻酔
 - ②超音波ガイド下末梢神経ブロック
 - ③点滴や座薬
- があります。



手術からの回復に必要な手術中の情報を記録に残し、病棟や外来看護師に申し送りをします。

また、当院の手術室では手術が終了して数日経過したのち、患者さまの病室を訪問する「術後訪問」も積極的に行っております。直接、患者さまの様子をお伺いし、より良い手術室看護につなげていておりますので、何かありましたらお声をお聞かせください。

術後の痛みについて

手術後の痛みは様々な合併症のリスクとなり、早期離床の妨げとなります。決して我慢をせず手術室看護師、病棟看護師にお伝えください。患者さまのより早い回復を目指して、手術後の痛みを和らげる方法を準備しておりますので、安心して手術を受けられてください。

くす通信

第264号
2023年2月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

麻酔科より

術後疼痛緩和について

看護部より

手術室には、患者さまの安全・
安心な手術を支えるために
私たち手術室看護師がいます!



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ様々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

術後疼痛緩和 について

麻酔科医師

もりなが まや

森永真矢



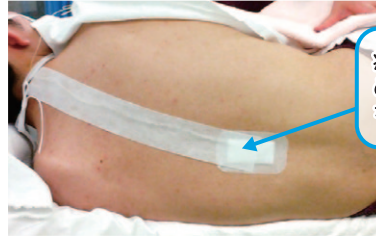
手術とは「外科的器具を用いて生体を切除する治療」を指します。治療に伴って神経組織が損傷し炎症反応が起こるため、痛みが発生してしまいます。全身麻酔下の手術中は意識も痛みも無い状態ですが、手術が終わって意識が戻った後に痛み（術後疼痛）が生じます。麻酔科はこの疼痛をできるだけ小さく、手術を受ける患者さまの不快な症状を可能な限り減らすべく、手術に応じて様々な計画を練ります。

通常なら鎮痛薬は内服することが多いと思いますが、手術の後はしばらく絶飲食期間があるため、内服できるまで時間がかかります。そのため術後は区域麻酔や点滴・座薬で疼痛の緩和を図ります。

区域麻酔とは主に局所麻酔薬を使用して痛みを伝える神経をしびれさせる鎮痛法で、代表的な方法として硬膜外麻酔と超音波ガイド下末梢神経ブロックがあります。一般的に、傷の大きな胸腹部の手術や両股・両膝関節の手術では、硬膜外麻酔を用います。背中に細いカテーテルを留置することで、術後数日のあいだ局所麻酔薬を持続的に注入することができます。傷の小さな胸腹部の手術や肩・片股・片膝関節の手術では、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用います。超音波装置（エコー）を使用して神経の周りに局所麻酔薬を注入し、時にカテーテルを留置することもあります。

点滴ではオピオイド（医療用麻薬）・非ステロイド系抗炎症薬・アセトアミノフェンなどを使用します。作用機序の異なる複数の薬剤を組み合わせることで、副作用を軽減し薬の使用量も減らすことができます。

硬膜外麻酔



痛み止めを入れるための細いカテーテルを留置します。

区域麻酔でも点滴でも、PCA（Patient Controlled Analgesia）ポンプを使用することがあります。これは自己調節鎮痛法とも言われる方法で、痛みを感じたときに自身でボタンを押すことで、安全な量の鎮痛薬をすぐに追加投与できる仕組みです。痛みは客観的に評価しにくく、また同じ手術でも痛みの感じ方は人により異なるため、患者さまが自己調節できるようにすることで、より細やかな疼痛管理が可能になります。

術後の疼痛は、無気肺や心筋梗塞のリスクとなることがわかっています。術後早くから疼痛を緩和することによって、不快な症状を和らげ、積極的にリハビリを進めることでこれらの合併症を減らすことができます。患者さまそれぞれに適した術後疼痛管理を行うことで、手術を受けられた患者さまのより早い回復を目指しています。

PCAポンプ



痛みがあるときに患者さまがご自身でボタンを押して安全な量の痛み止めを流すことができます。

背中の細いカテーテルや神経ブロックのカテーテルにつなげます。

麻酔科の紹介

麻酔科医は手術が成功し最良の患者さまのサポーターとなるべく、手術室看護師を含めた多職種スタッフとともに働いています。手術時には適切な麻酔法を提供します。自身が受けられる麻酔を理解していただくために手術前に麻酔科医から説明を行っています。麻酔科外来を事前に受診していただくように担当の医師からご案内することもあります。疑問があればなんでもご質問ください。また手術前には皆さんがやっておくべき準備があります。手術麻酔と関連がないように思われる“糖尿病のコントロール”や“禁煙”は皆さんの手術医療が成功するためにとても重要です。ぜひ覚えておいてください。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 受付時間 8：15～11：00
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。